



南十字星



2020年度 第10号

令和2年9月3日

クイーンズランド補習授業校

ブリスベン校

校長 直塚 裕典

E-mail : hoshuko@jc-b.com

おかげ様で前期もあと3回となりました！



年度当初、コロナの影響で補習校に限らず例年通りとはならない学校がほとんどで、お世話をおかけしました。第一学期はオンライン等によるサポートを行い、第二学期は新たな代替校選びの問題が生じましたが7月25日から対面授業を始めることができました。早いもので今週が7回目を迎えます。運営委員の皆様やボランティアの方々には、早朝より送迎時の駐車場整理の安全面や消毒など、コロナ対策等で大変お世話になっています。いろいろな課題もありますが、保護者の皆様のご協力とご理解のうでで乗り切れたらと思っています。

さて、補習校では授業時間数の確保ができ、教科カリキュラムが順調に進めることができています。また、子ども達は前期の集大成をこれからしていきますので、最後締めくくってくれると期待しています。

日本は、まだまだ暑い日が続く、台風の時節にもなりました。そちらはまだまだ寒いのでしょうか。今後とも補習校の子ども達のためにご協力とご理解のほどよろしくお願いいたします。

「ある仲間から学んだこと！」 ～補習校の仲間からたくさんのことを学ぼう～



今年度の高校野球は、都道府県独自の開催になりました。次の内容は昨年度の地方大会の記事です。

高校野球地方大会決勝、A高校のスタンドにひととき大きく声を張り上げる選手がいた。3年生で唯一ベンチ入りを逃したB選手。下級生と声を合わせて、「エンヤ！エンヤ！」と応援を盛り上げ、「まだ気を緩めるな」「ナイスキャッチ」とナインを鼓舞した。「あいつのために一つでも多く勝たかった」。大会後、主力の3年生は勝因を尋ねられると必ずB選手の名前を挙げた。B選手はA高校の躍進を支えたチームワークの中心にいた。B選手は決して恵まれた体格ではないが、まじめな性格で3年間、こつこつと練習してきた。仲間にも認められ、レギュラー入りを目指して取り組んできた。迎えた最後の夏、B選手はベンチ入りメンバーから外れた。しかし、「自分に力がなかったから」と腐らなかった。もちろん、悔しかったが、すぐに気持ちを切り替えた。「自分にできることをやるだけ」と、これまでと変わらない態度で練習に取り組み、献身的にレギュラーをサポートした。実は大会に臨む前、選手の気持ちがまとまらず、打線もつながらなかった。ところが、B選手がベンチを外れたことが皮肉にもナインの心を一つにした。大会で試合を重ねるごとに、スタンドで必死に応援するB選手が目にと留まった。「あいつの気持ちに応えたい」。単純だが強い思いが、目の前の一戦一戦にナインを集中させた。大会で優勝した翌日、甲子園のベンチ入りメンバーが発表された。「背番号18、B選手」。監督は、彼を必要としたのです。子ども達が今後、社会で必要とされる人になってほしいと願います。

「勉強も人生も自分との戦い」

大阪の人が物を買う時に、「勉強しといてや」と言うのと、「勉強しなさい」は同じでしょうか？勉強の「免」は、「まぬく」「ゆるす」の意があります。出産する象形文字が「免」力を入れて「まぬく」ことです。女偏をつけると、「娩」になる。お産は命がけで、大変な苦痛を伴うが、後々で子どもが癒して、助けてくれます。商売も負けてもらう（勉強しといてや）と、後々いいお客になります。学校の勉強も今は大変だけど、後々、自分の人生を助けてくれるという意味があります。先を憂いて、後に楽しむ心がけのことを言っているのです。

- (1) 登校時刻 8時25分～
(2) 下校時刻 2段階時間差下校
・12時30分～ 幼稚部～小学部3年生
・12時45分～ 小学部4年生～中学部

  南十字星 	2020年度 第11号 令和2年9月19日 クイーンズランド補習授業校 ブリスベン校 校長 直塚 裕典 E-mail : hoshuko@jc-b.com
---	---

いよいよ二学期の終業日、そして、前期が終わります。



保護者の皆様には、年度当初から新型コロナの影響で大変お世話をおかけした前期でした。一学期は、対面授業が行うことができず、オンライン等によるサポートを実施し、二学期は代替校がなかなか決まらず、二週間遅れで対面授業を行うことが出来るようになりました。特に、一学期のオンライン等によるサポートでは保護者の方々に多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。また、二学期は新型コロナの感染防止に配慮しながらの日々でした。授業参観や運動会などほとんどの行事を見送ることになったことが残念でした。校内では、ソーシャルディスタンスや消毒の励行等を繰り返し指導しながら、学習内容の遅れがないように努めました。何もかもがこれまでと違う前期でしたが、無事に今日まで授業をすることができました。

子どもたちにとって本当に大変だった2学期であり、前期だったと思いますが、みんなよく頑張りました。どのクラスも落ち着いて学習ができていたようです。これも、各ご家庭のご協力があったことです。毎回の検温をはじめ、健康管理に努めていただき、本当にありがとうございました。また、二学期を無事に終わることができるのは、補習校を支えていただいた運営委員会の皆様方や保護者役員及びボランティアの方々のおかげだと感謝申し上げます。登下校時の安全指導はもとより常に子どもたちを温かく見守っていただき、誠にありがとうございました。オーストラリア国内やクイーンズランド州も新型コロナが流行しているとお聞きしています。春休み中も引き続き、感染防止対策を徹底されますようよろしくお願いします。今年の春休みは13日間しかありませんが、この間子どもたちは家庭やコミュニティで育ちます。温かいお声かけをしていただければありがたく存じます。

いよいよ2学期の終業日ですが、前期は18日の授業日数でした。お子さんと「学習のあゆみ」を見ながら、親子で振り返り、春休みや三学期の生活についてお話をしていただければと考えます。春休みの計画に沿って、規則正しい生活習慣を心がけ、「有意義な春休みだった」と言えるようにしてほしいと思います。

少し考えてみましょう!! 「カエルの物語」



昔々、親に逆らってばかりのカエルがいました。死期を悟った親ガエルは、「死んだら川のそばに埋めてくれ」と頼みました。そうすれば、山に埋めてくれるに違いないと考えたのです。しかし、これまでの親不孝をすまないと思っていたカエルは、最後ぐらい望みをかなえてやろうと、川のそばに葬りました。だから、今でも雨が近づくと、川があふれるのを心配してカエルが鳴く・・・。(出典 雨のことば辞典)

～ これは、「親孝行したいときには親なし」という川柳が身にしみる話です ～

親は、子どもより先に人生を生きているから、どうしても「こうした方が良くないか?」とか、「私の言ったようにしなさい」などと、子どもの意志を考えずに自分の考えを押し付けることが多々あります。

しかし、あとで後悔しないようにできるだけ一緒に時間を過ごし、お互いに話をしたり、聞いたりすることは大切だと思います。お互いに相手が大切な存在だということは分かっているのだから。

「日々の生活を大事にできる人間でありたいです」という言葉から学ぼう！

村治佳織(むらじ かおり)さんは、クラシックギターの演奏家です。幼い頃から父の厳しい教えを受けて育っています。1993年に15歳でデビューしてからは、クラシックファンにとどまらない広い層の支持を得ています。2008年のインタビューで「めざす演奏家像」を質問されたときの言葉が、標題です。アーティストとしての高い理想を語るのではなく、なによりもまずひとりの人間として、いかに生きるかを語っているのが印象的です。

日々の生活を大事にすることは、簡単なようでいて実はとても難しいのです。人生には限りがあり、人はときに永遠の命を願ひもします。しかしその一方で、毎日の生活を大切にすることはつい忘れがちです。ただ無為に日々を過ごし、あとになってから後悔することも多いのです。

これを避けるには、村治さんのように「日々の生活を大事にする」という意識を常に持ち続けることが大切だと思います。もちろん、これが何よりも難しいのですが、、、。村治さんは、2013年に病気で長期療養に入るという不運にも見舞われます。だが、その後復帰してからもポジティブな姿勢は変わらず、数年後に新作を発表したときには、「常に今を大切にする姿勢は変えずにいきたいですね」と語っています。そのブレない生き方が素晴らしいと思います。

見つけたよ、いいことば！ 「心の泉」 ～ピンチの裏側～ 今年のピンチをチャンスに！

神様は決してピンチだけをお与えにならない。ピンチの裏側に必ずピンチと同じ大きさのチャンスを用意してくださっている。グチをこぼしたりヤケを起こしたりするとチャンスを見つける目がくもり、ピンチを切り抜けるエネルギーさえ失せてしまう。ピンチはチャンス。どっしりと構えてピンチの裏側に用意されている「チャンス」を見つけよう！



(幼稚園ミニ運動会)

学習のあゆみについて（お知らせ）

学習のあゆみ「通知表」は、お子様の学習状況や補習校生活の様子をご家庭にお知らせし、お子様についての理解を深めていただくものです。補習校と家庭が連携し合って、お子様をよりよく育てる役割をするものです。また、補習校は日本の学校と同じように学習の様子だけではなく、補習校生活全般を通して教育を行っています。

小学部は学習指導要領の改訂に伴い、本年度から各教科の評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に変更になりました。評価は、それぞれの観点において学年の内容に応じて到達度を定め、その評価の規準をもとに評価を行います。他の子どもとの比較ではなく、教科ごとの観点においてどの程度できたか（絶対評価）を表します。

しかし前期については、一学期がオンライン等によるサポート、二学期においても対面授業の日数が少なく、十分な評価ができない状況でした。

そこで、小学部については、授業中の様子における「主体的に学習に取り組む態度」の観点のみ、評価をしています。所見については、それ以外の観点を含めて、対面授業に関して担任が気付いたことを記載し、三学期につながるようにしています。後期には評定をしますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。